

日本の母親のネットワークの実態と類型
韓国の母親との比較を通して

○米田佑（東北大学教育学研究科）

1. 背景と目的

本報告の目的は、日本の母親が有するネットワークの特徴を韓国の母親のそれとの比較を通して明らかにすることである。これまで母親が有するネットワークが母親の心理的状态（松田 2001 等）や教育意識（荒牧 2018 等）と関連することが指摘されてきた。しかしながら、実際に母親がどのようなネットワークを有しているのかという実態については不明確な点が多い。特に、諸外国と比較した際に日本の母親が有するネットワークの形態にどのような特徴が確認されるのかは不明確なままである。これまで、母親は夫や親族とのネットワークを強くとり結ぶことが示唆されてきたが（関井他 1991 等）、その傾向が諸外国と比べても確認されるのかは分からない。そこで、本報告では韓国の母親との比較を通して、日本の母親のネットワークの特徴の一端を明らかにする。

2. データと方法

データは 2012 年度の日本版総合的社会調査（Japanese General Social Survey: JGSS-2012）および韓国版総合的社会調査（Korean General Social Survey: KGSS-2012）を用いる。分析対象は 15 歳以下の子どもを持つ女性である。彼女らを母親として捉えて分析を行う。

ネットワーク変数としては、保有された（stocked）ネットワークと実行された（activated）ネットワークを区別して考える（野尻 1974; 松田 2001）。前者に関しては、「会や組織への参加度合い」「1 日に接する家族や親類の人数」「1 日に接する家族や親類以外の人数」「近所づきあいの程度」を用いる。後者に関しては、「悩みや心理的な問題が生じた際に助けを求めた人」「健康上の問題が生じた際に助けを求めた人」「家事や育児、介護の問題が生じた際に助けを求めた人」「金銭的な問題が生じた際に助けを求めた人」に関する質問を用いて変数を作成した。これらの変数について日本と韓国の単純な比較を行なった後、保有されたネットワークに対しては混合正規分布モデルによるクラスタリング、実行されたネットワークに対しては潜在クラスモデルによるクラスタリングをそれぞれ国別に行ない両国の特徴を分析した。

3. 結果

現在までに得られた結果は次のとおりである。まず、日本の母親は韓国の母親と比べて「会や組織への参加度合い」「1 日に接する家族や親類の人数」が少ない傾向にある一方で、「1 日に接する家族や親類以外の人数」は多い傾向にある。一方で、実行されたネットワークに関しては韓国の母親よりも日本の母親の方が家族に頼る者が多かった。

また、国別のクラスタリングの結果から、保有されたネットワークについては両国とも 3 つのクラスターが存在していることが示唆された。ただし、両国間のクラスターの特徴は異なることが明らかとなった。実行されたネットワークについては日本で 3 つのクラスター、韓国で 4 つのクラスターが存在していることが示唆された。

当日はこれらの分析結果の詳細を提示し、日本の母親のネットワークの特徴について議論する。

【謝辞】

日本版 General Social Surveys（JGSS）は、大阪商業大学 JGSS 研究センター（文部科学大臣認定日本版総合的社会調査共同研究拠点）が、東京大学社会科学研究所の協力を受けて実施している研究プロジェクトである。JGSS-2000～2008 は学術フロンティア推進拠点、JGSS-2010～2012 は共同研究拠点の推進事業と大阪商業大学の支援を受けている。

キーワード：母親、ネットワーク、国際比較